

ラテックスアレルギーに関する周手術期看護師の実態調査

朝倉医師会病院 手術室

矢山めぐみ、北野祐貴、重松千冬

【はじめに】

日本におけるアレルギー疾患の罹患率は年々高まっており、その中でもラテックスアレルギー（以下 LA）は医療現場において増加している。現状として麻酔・手術・検査前に LA の確認をしている病院は 5%と報告されている。2014 年当病院で術中に LA と思われるアナフィラキシーショックを経験した。それを機に、当手術室ではラテックス対応のマニュアルを作成し、LA が疑われる患者にはラテックス対応するようにしている。しかし実際にその頻度は少なく、周術期に関わる看護師が LA に対してどのように対応しているのか疑問に思い本研究に取り組んだ。

【目的】

本研究では周手術期に携わる看護師を対象にアンケート調査を実施し、LA に関する現状を分析し今後どのようにすれば LA に関する知識の向上を図れるかを見出すことを目的とする。

【方法】

- 1、対象：周術期に従事する看護師（外来・整形外科病棟・外科病棟・手術室）101 名
- 2、調査期間：平成 28 年 10 月 13 日～平成 28 年 10 月 21 日
- 3、方法：LA に関する現状を把握する為、大野ら¹⁾のアンケート 6 項目に独自の質問項目を加えたアンケートを作成し実施し、アンケートの結果から抽出される課題を分析した。

【結果】

- 1、LA の認知度は高く、病棟や経験年数による認知度の差はなかった
- 2、LA に関する具体的知識の浸透については病棟間に差があった（外科病棟・手術室は浸透している）
- 3、問診の際のアレルギー確認時、意識して LA 確認を行っている人は少ない
- 4、ラテックスフルーツ症候群（以下 LFS）の認知度は低く、原因となる食べ物が理解できていない
- 5、LA が疑われる患者に対し、対応がわからない人が多い

【考察】

今回の調査で LA に関する認知度は高いが、具体的知識が浸透していないことが明らかとなった。これは病棟により治療や処置が異なること、LA に接する機会が少ないことが背景として考えられる。また LFS の認知度は低く、LA・LFS の知識習得のための活動が必要である。今後統一した対応ができるように LA に関する勉強会を行い、LA・LFS の知識と共に LA 対応を実施するための基準を定め、より安全な周術期医療を提供していく必要があると考える。